



栄小学校だより

令和5年3月20日(月) No.45

〇6年生が巣立ちました。 「卒業！おめでとうございます！」

3月17日(金)、「令和4年度鈴鹿市立栄小学校卒業証書授与式」を行いました。

鈴鹿市教育委員会事務局教育指導課 副参事 伊藤佳代子様、地元選出市議会議員様、学校運営協議会委員の方々を来賓に迎え行いました。

35名の卒業生が6年間の小学校課程を修了した証として卒業証書を校長から一人ずつ授与されました。どの卒業生も、緊張しつつも自分の成長を誇らしげに堂々とした姿でとても凛々しかったです。

卒業証書をひとり一人に渡している時、ほんの数秒の短い時間でしたが5年・6年の2年間をこの栄小学校で一緒に生活した思い出がよみがえりました。

式辞として校長からは、「コロナ禍の中でも工夫をして、最上級生として栄小学校を盛り上げてくれてありがとう」、「栄小学校は、児童・先生だけでなく、保護者・地域・ボランティアの方々に支えられながら成り立っている」、「大人になった時、ボランティアに参加して、支える側にもなってほしい」、「常に感謝の気持ちを忘れず、何事にも全力で、笑顔と元気を届けられる人になってほしい」、「皆さんの限りない可能性と未来を信じ、中学校での更なる活躍を願う」等の話をしました。

最後は、卒業生と在校生代表(5年生)の「門出の言葉」です。35名の卒業生が、短い言葉に小学校6年間の思いを込めて語りました。そして、卒業生・在校生で別れの歌「旅立ちの日に」を歌いました。体育館いっぱいに響き渡るハーモニー、抑揚の中に思いを込めた歌詞、とても素晴らしかったです。

退場時の晴れやかな子どもたちの姿を見て、小学校6年間の成長を感じ、これからの飛躍が期待できました。

また、卒業式開催に当たり、参加いただいた保護者の皆様、いろいろな掲示をしてくれた在校生、会場準備をしてくれた5年生、6年生の教室をとっても素敵に飾りつけてくださった、読み聞かせボランティアのみなさん、ありがとうございました。



○多読賞 表彰

3月20日(月)の業間に校長室にて「令和4年度栄小学校多読賞表彰 前半部」を行いました。

これは、年間を通じて栄小学校図書室で多くの本を借りた児童を表彰するものです。

今回の特集にも記載しましたが、「小学生の読書をする効果」は、抜群です。文部科学省の調査でも、「本を読むこと」と「学力」には関係性があると結果が出ています。これからもどんどん読書をして、本に接してもらいたいです。22日(水)に後半部を行う予定です。



☆特集 保護者に向けた「親塾シリーズ」No.14

「小学生が読書をする効果」

1. 小学生が読書をする集中力が養われる

小学生が本を読むと集中力が付き、大人になっても忍耐力が養われることが最大のメリットです。本を読むことは文字を追いつけるため、漫画やテレビと比較するとかなりの集中力が求められます。文章に入り込んで自分の世界に浸り、集中して読み続けないと、内容を理解することができません。

小学生はまだ落ち着きなく、一つのことをするのに集中力が続かないケースは多いです。実際に、読書をしていない小学生は集中力が欠けて、勉強が得意ではないという統計があります。

一方で、読書をする小学生は集中力があり、学力が高い傾向にあることが分かっています。小学生が読書をする集中力が養われて、脳にも良い影響を与えるのです。本には小学生がまだ知らない表現が出てきますが、意味がわからなくても前後関係から推測できます。

小学生から多くの単語や漢字に触れることで、読解力が身に付き、語彙力も蓄積されるのがメリット。賢い小学生が読書をしているのではなく、読書をすれば成績アップにも繋がります。

2. 小学生が読書をする人の気持ちを理解できるようになる

読書は文字を読み進めながら、情景を想像したり、登場人物の心情を理解していきます。写真や絵がない本を読むことは、自分の想像力を最大限に働かせるので、脳が活性化するので、また、読書が習慣化すると、感情移入が得意になり読解力が付くので国語の成績が上がります。

国語の練習問題では問題文を読み、何を問われているのか正確に把握することができます。読書を通じて語彙力が高まり、人の話を聞けるようになり、人の気持ちを理解できる人間になります。子どもの成長には親・教師・友人など周囲とのコミュニケーションが不可欠です。

実際に、子どもの頃に読書をした人は、大人になってからもコミュニケーション能力や社会性の高さが報告されています。読書は国語の読解力や成績向上だけでなく、スムーズな人間関係を築く能力も高めてくれるのです。まずは、子どもが興味を持つ本をたくさん読ませる機会を与えてあげましょう。

3. 小学生が読書をすると言語能力が付く

大人になっても語彙力があって表現力が豊かな人とそうではない人がいます。小学生から読書習慣がある子どもは正しい言葉遣いができるようになり、言語能力が付きます。物語に登場する人物の気持ちを理解して、話の展開を想像するので自然と言語能力が高まるのです。脳科学者の第一人者である川島隆太先生は、「読書をする脳を活性化させて、脳の発達成長も促進させる」と伝えています。読書をする正確に物事を理解することができ、大人になっても正しい判断ができるようになるのです。

実際に、本を読まずに想像力が低い小学生は相手の気持ちを理解できず、トラブルの原因になるケースも見られます。読書は集中して自分の世界に入り込むので、ストレスを解消して、気持ちを穏やかにする効果があるとされています。

家族と一緒に読書をしたり、同じ本を読んで感想を共有する楽しみ方もおすすめです。1日の読書時間が長い小学生は全く読書をしていない子よりも成績が良い傾向にあります。